

---

# 路傍の神

立花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

路傍の神

### 【Nコード】

N2923U

### 【作者名】

立花

### 【あらすじ】

あの濁流に吞まれてしまえば、川の一部になってしまえばこの身を切るような痛みから逃れられるのだろうか。

身内を一気に亡くし、気の病になった志乃を水面が誘う。

軽い溺死描写があります。お気をつけください。

ちょっと暗めの異類婚姻です。今のところ二話で完結ですが、もしかしたら短編集化するかもしれません。

## 志乃

折からの雨で、川は酷く増水していた。

茶色く濁った川は鉄砲水のようになり、このままでは氾濫するの  
も時間の問題と思われた。一度反乱すれば、普段川の恩恵に預かっ  
ている小さなこの山村は、あつという間に飲まれてしまつたろう。

殊に、この雨はおかしかった。

ざあざあど激しい音を立てながら、大きな雨粒が次から次へと降  
り注ぐ。そんなことが、もう三日も続いている。

志乃は、灰色の分厚い雲を眺めながら、顔を雫で濡らした。

空の異常も、このままでは畑の野菜がやられてしまう事も、今の  
志乃には些細な事のように思われた。

冷たい雨水に混じって、温い雫が頬を流れ落ちていく。涙も雨も  
一緒になって、志乃を濡らしていく。

このまま水になって川に流されてしまえば、あの濁流の一部にな  
れば、切り裂くような寂しさや辛さはなくなるのだろうか。

水になって、何もかも飲み込んでもみくちやにしてしまえば。

ふらり、と足を川の方へと踏み出した。

それを咎めるように、遠くから志乃を呼ぶ声が聞こえた。

「お志乃！ 何をしている。風邪を引くぞ」

ばしゃばしゃと池のようになった道を、三件隣の幼なじみが志乃  
の側へと駆け寄ってくる。

「又左さん」

志乃の空っぽの顔を見た幼なじみは、顔を少し強ばらせて志乃の  
腕を取り、ぐいと引っ張った。

「村長がよんでる」

それだけ言うと、そのままぐいぐいと腕を引き、村長の屋敷へと  
志乃を引きずるように連れて行った。

村長の家は煌々と灯りが点されて、そこだけ別世界のように暖かだった。

木の戸を閉めれば激しい雨音は僅かに遠くなり、その分外と切り離される。

しとどに濡れそぼった志乃は土間に通されて、地面の土を濡らした。

髪から、着物から、ぼたりぼたりと雫を垂らす幽鬼の様な志乃を、村長は痛ましげに見やった。

明るく、朗らかな娘であった。五件先まで弾けた笑い声が聞こえてくるような、快活でよく笑う娘であった。

その志乃が幽鬼の様になったのは、五日ばかり前のことだ。

言い交わしていた若者と、両親を一度に失った。

その死の様は、奇妙の一言に尽きた。

熱に浮かされるように讒言うわごとを発しながら、ざぶざぶとまだ穏やかだった川に許嫁が入っていったのが六日前。

次の日の夜には志乃の両親が同じ様にざぶざぶと自ら川に身を沈めた。取り乱し、気の病にかかる志乃をあざ笑うように、四日前に下流から水に膨れた三人の遺体が引き揚げられた。

そうして志乃はいよいよ幽鬼の様になってしまった。

志乃を哀れに思うものの、このまま村を放つてもおけない村長は、隣村から占いをよくするという婆に話を聞きに言った。

この雨はどう考えても異常だ。異常な雨なら何か理由があつて降っており、理由があるなら止められるかもしれぬ。その村長の思いつきは婆の占いに肯定された。肯定されはしたが、しかし余りにむごい結果であったのだ。

婆は言った。

「直前に、川に身を沈めて亡くなった身内を持つ娘が居るじゃろう。その娘を川主様に捧げよ」

その娘は川主に魅入られておる。川主が娘を欲したが為、娘の身内が次々川に呼ばれたのじゃ。娘は自ら川に入るようにな。この雨もその一環じゃて。娘を川に呼んでおる。

娘がその身を捧げるまでこの雨は止まぬぞ。

志乃の顔を見つめる村長の頭に、婆の言葉が響いた。身内を失った娘を、人柱に立てる。

志乃が余りに哀れで、呼び出したはいいが村長はなかなか口を開くことができなかった。

けれど、志乃を差し出さねば村は飲まれるだろう。幽鬼のような志乃は、既に黄泉の国に捕らわれている様に見えた。

水面に消えた、両親と若者に。

哀れに思うなら、逝かせてやればいいのかもしれぬ。一人取り残された痛みより、愛する家族の元へ逝かせてやったほうが……。

如何に自分に対して言い訳をしようにも、志乃を汀に追ひ込む罪悪感は消えぬ。けれど、村を救うために、この罪を犯さねばならぬ。「志乃。越村の婆がいうにはな、川主様が暴れていらっしやる故の雨だそうじゃ。沈めるためには、妻を差し出さねばならぬ。志乃…… お前に頼むことの酷さをよう分かつて居る。儂を恨んでくれ」川主というのは、川に奉られる神の事だ。みづちであると言われている。

「川主様を鎮めにゆけばいいのですね」

面をあげた志乃は、微笑みを浮かべていた。

長雨の後、太陽をみた百姓の如き笑みだと、村長は思った。

「すぐにゆきます」

戸を開けて、激しく降り続ける雨に躊躇することなく志乃は身を晒し駆けてゆく。

外で話を聞いていた幼なじみが思わず止めようとするのにも気づかず、轟々と流れる川に一目散に駆けてゆき、そのままの勢いで濁流に身を投げた。

ああ、これで。  
もう痛くない。

激しい雨音に、志乃が落ちた音に気づく者はなく、ただ、事を知っている村長と幼なじみだけが、志乃を飲み込んだ濁流に、泣きながら手を合わせたのであった。

夜が明ける頃には雨の勢いは弱まり、太陽が登り切る頃には嘘のように晴れ間がのぞいていた。

その頃には、皆志乃が人柱になったことを知っており花が手向けられた。

いくら探しても志乃の遺体は上がることはなく、志乃は神の国で川主の妻になったのだと誰もが思った。

川主の祠には志乃の使っていた櫛が奉納され、川主の妻として奉られることとなった。

## 川主

初めは、ただ気になったただけの様な気がする。

優しい彼女の顔を映す度、凧いでいた心が波紋が伝わるようにざわめいた。弾けるような、けれど優しい笑い声が耳に心地よく、次第に彼女の姿を映せば体が喜びにくなるようになった。

それまでの自分のありように、不満は無かったはずだ。けれど、彼女を見つけてからは酷くつまらないように思えた。身の内にか弱き生き物を育み、田畑を潤し、人の乾きを沈めてきた。人からは感謝を捧げられ、たまに供物が供えられた。それだけの関係で、満足していた筈だ。

けれど、ふと寂しくなったのだ。傍らに立つ若者に、はにかみながら笑いかける彼女を見て、自分の傍らに立つものが居ないことが酷く寂しく感じられたのだ。

その寂しさは容易に欲に変わった。

彼女に笑いかけてほしい。自分の横にきてほしい。常に自分の傍らにいて、寂しい心を暖めてほしい。

一緒にか弱き生き物を見て、その一生を分かち合ってほしい。田畑を潤して、作物の成長と人の努力を見てほしい。人の渴きを癒やして、感謝される喜びを分かち合ってほしい。

今までずっと独りきりでやってきたこと。見てきたもの。感じたこと。全て彼女と分け合いたい。

そうするには、彼女に自分で川に入って欲しい。

自らの足で、自分の広げる腕かいなに飛び込んできてほしい。

だから、先ずは邪魔な若者をこちらに迎えた。

意識を操作する事なんて容易い。しかし、自らの勝手で命を奪うことに些かの憐れみを覚えて、優しく受け止めてやった。苦しましいように直ぐに肺を水で満たし、根の国に迷わず行けるように送り

届けた。

次の日には、彼女の両親を。娘を亡くすことは彼らに強い悲しみを与えるだろう。ならば、そうなるより前にこちらに迎えてやろう。彼女を生み、育ててくれた者達だ。やはり、苦しまないようにしてやらなければ。根の国の母なる伊邪那美に託すでしょうか。ゆつくりと休むがいい。

そうして準備を整えて、後は彼女を迎えるだけとなる。

我が心は期待と歓喜に震え、高ぶった感情は雨を降らせ、彼女を水面に誘う。

さあおいで。

それでも意識を操ることはしない。彼女の意志で、その足でこちらに来てこそ意味があるのだから。

ああ。

勢いよく飛び込んでくる彼女を、この腕にしっかりと抱き留める。

志乃。

志乃。

これでお前は我妻になる。

永久とこしえに、骨の髄まで愛してやろう。

ぐずぐずに溶けるほどに。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2923u/>

---

路傍の神

2011年6月23日06時40分発行